

令和2年9月4日

美深町議会議長 南 和 博 様

産業教育常任委員会委員長 岩 崎 泰 好

所 管 事 務 調 査 報 告

本委員会は、閉会中に所管事務調査を行ったので、会議規則第77条の規定により別紙のとおり報告する。

記

調 査 日

令和2年7月31日

調査事項・内容

- (1) チョウザメ事業の現状と課題
 - ①事業推進委員会の開催状況と内容
 - ②飼育研究施設の稼働状況と建設工事進捗状況
 - ③飼育状況やふ化の現状と課題
 - ④販売状況と今後の課題
- (2) 山村留学制度と仁宇布小中学校の学校運営の現状と課題
 - ①特認校や義務教育学校など検討課題の進捗状況
 - ②山村留学制度を支える今後の施設整備
 - ③学力や体力面における取り組みの現状と検討課題

調査方法

現地視察・聞き取り

調査のまとめ

- (1) チョウザメ事業の現状と課題
 - ①事業推進委員会の開催状況と内容

委員会は、平成29年・30年に年1回ずつ開催されたが、令和元年から未開催。現状について、具体的な問題は専門家から意見や助言をもらっているということでクリアしているとの報告。事業の進捗状況は目標を達成できていないため、現在の実績と合わせて当初計画を見直していく必要があるとの回答を得たが、事業推進委員会の開催は、構想検討の場から産業化へ向けて各分野の専門家から意見や助言を貰う場として設置されたものであり、ふ化・飼育の様々な現場の状況と計画の進捗の乖離がみられる現状と、キャビア生産に関しても採算ベースで事業計画通りの目標に到達するには

困難な状況にあり、推進委員会として現状を分析し、実績や課題を取り入れた事業計画の再検討が必要である。計画の見直し等も含めた課題は大きく、未開催という現状は今後の運営や検証に禍根を残すものであることから定期的な開催を求める。

②飼育研究施設の稼働状況と建設工事進捗状況

飼育研究施設（辺溪）の稼働状況は、チョウザメふ化棟が平成30年6月3日稼働し44基の水槽で2,035匹（R2.6.30現在）の飼育が行われている。水源は当初放流水としたが、飼育の経過の中で様々な課題が出て、本年度はふ化棟の一部においてかけ流し飼育が可能となるよう施設改善を実施した。チョウザメ屋外稚魚飼育水槽は令和2年6月1日稼働し、ハウス付き水槽8基で459匹（R2.6.1現在）を飼育し予想以上の成長であったとのことだが、現地視察時は仁宇布水力発電所の導水管点検のため止水状況が発生し他施設へ移動している状況であった。（ハウスなし水槽10基は工事中で、秋以降順次稼働の予定）

飼育の経過の中で様々な課題があり、特に水質に問題はないが稚魚・成魚の生存率が低いことについては快適な飼育の環境づくりに関係機関の研究・助言による改良を加え研究を重ねていることは評価する。チョウザメ屋外稚魚飼育水槽の稼働は、予想以上の成長であったとの報告に安堵するが、ハウスなし水槽10基が秋以降順次稼働の予定であり、仁宇布水力発電所の導水管点検のため止水への対応策は重要な課題。建設工事進捗状況は、平成29年度から取水樋門・排水樋門・ふ化棟建設から始まり令和2年度の屋外稚魚飼育水槽10基建設まで、7億3241万4800円の工事費が当てられている（表1参照）。令和3年度予定している高温水浅水槽や屋外親魚飼育水槽など先送りし、既設屋外水槽のハウス設置など運用改善を最優先として検討中との報告。令和3年度以降の工事の進め方は、優先順位や新たな取り組みを含めて構想全体像の再検討と再構築が課題。

③飼育状況やふ化の現状と課題

ふ化の現状については、平成30年度・令和元年度と稚魚飼育が順調にいかず生存率が1.3%と低いため、北海道大学、さけます内水面試験場の指導・協力を受け原因分析と辺溪ふ化棟の一部にかけ流し飼育が可能となるよう施設改善を実施し採卵受精作業を実施している。人工飼料への切り替え時期を体長約5cmとして水質悪化とならないよう給餌量調整し体長15cmくらいまで注意深く飼育（各年度産のR2.6.30現在の育成数は、平成30年度産約1,500匹・令和元年度産約400匹・令和2年度産約60,000匹）町内全域での飼育状況は、5施設で4,131匹（R2.6.30現在）飼育され、施設能力や作業効率など勘案し成長に応じて移動させるとしている（表2参照）。

チョウザメの育成に取り組んでいる他地域と自然環境や飼育方法に違いがあり、美深町独自の知恵を加えながら技術確立に努める方針。キャビアに関しては、育成年数を経過すればキャビアができると予想していたが、個体によってキャビアの質にバラつきがあり商品化までには5年程要すると想定。

飼育状況とふ化の課題は、常に育成技術の確立と環境整備・改善を行っていかねばならない現場の努力を評価するとともに、蓄積してきた経験に学び計画にある毎年5,000匹育成体制構築に尽力されたい。

④販売状況と今後の課題

販売状況は、平成30年度・令和元年度の2年間で713匹（1,434.1kg・242万8800円）で、このうち雄は町が美深振興公社にキロ1,000円で卸し、魚肉を公社が町内外に販売しており、雌はキロ30,000円で卸し、魚肉やキャビアはびふか温泉で「チョウザメ堪能プラン」として使用。びふか温泉を除く町内外事業所への販売実績は、町内延べ8事業所・町外延べ6事業所へ125匹（172.2kg）（表3・4参照）。高級志向の町外の観光ホテルなどから注文も見られ、キャビアにおいても問い合わせがある状況。瓶詰めの本格的キャビアは味付けの調整など経て本年度から販売予定だが、まだまだ本格的なものまでには至っていないという課題がある。魚肉販売では、町民のチョウザメ料理に対するイメージは泥臭さなど未だ払しょくされていないことから、人気メニューになるチョウザメ料理の開発や町内飲食店における普及と定着がまだまだ必要であり、一定期間低価格での魚肉提供を町内外の事業所レストランなどに働きかけることも一案として提案したい。

（2）山村留学制度と仁宇布小中学校の学校運営の現状と課題

①特認校や義務教育学校など検討課題の進捗状況

小規模特認校、義務教育学校等の検討状況においては、平成28年から数回に及ぶ懇談会や教育委員会会議で検討されている。義務教育学校制度の導入は、現状において、仁宇布小中学校の特色となる少人数指導、小中一貫教育や小中教諭相互乗り入れによる専科教育の充実など既に取り組んでいる状況にあり、導入した場合でもさほど変化はないことが示された。義務教育学校制度を研究していく中で、養護教諭や事務員の配置に児童生徒数によって町の負担が生じる場合があることが判明し、現在では保留としている。

課題として、現状では学校長の発令の元、小中教諭が兼職しているが、今後の継続性にはその時の学校長の意向が問われ、不確実であることが挙げられる。

小規模特認校では、現在建て替えが進んでいる仁宇布小中学校の児童生徒数は23名程度を想定しており、市街地からの受け入れには制限が必要になることや、仁宇布までの通学などの面で課題もあるが、これから制度導入を目指していくとされた。

小規模特認校や義務教育学校の制度導入にあっては、平成29年から30年まで議会で設置した「山村留学に関する調査特別委員会」の際に児童生徒数の維持確保という面で仁宇布小中学校存続の根幹をなすものとして位置づけられたものである。義務教育学校の導入は検討課題として残されるが、小規模特認校は早急な実現を求めるものである。

②山村留学制度を支える今後の施設整備

山村留学制度を支える今後の施設整備では親子住宅の確保が課題となっており、第6次美深町総合計画へ持ち越しされる状況。ホスターホームの整備には財源的に厳しいものがあり新しい計画はないとの見解だが、前述の「山村留学に関する調査特別委員会」の中で、親子住宅やホスターホームについて老朽化や男女が寄宿することへの問題、課題が提起されており、総合計画に盛り込むことを求める。

③学力や体力面における取り組みの現状と検討課題

学力や体力面における取組においては、学力面で少人数指導、小中一貫教育の充実、放課後学習会の実施や宿題、家庭学習の丁寧な点検など、小規模校ならではのきめ細かな教育、学習指導がなされている。また体力向上の取組みでは、小学校5年生からの部活動参加や地域行事参加による体力づくりなど魅力ある特色づくりが実践されている。

【参考資料】

表1 建設工事進捗状況

年 度	工 事 費	内 容
平成 29 年度	368,296,200 円	取水樋門・排水樋門・ふ化棟ほか
平成 30 年度	211,269,600 円	休憩棟・導水路・排水路・沈砂池・ビオトープ・車庫・資材庫・屋外稚魚飼育水槽ほか
令和元年度	73,849,000 円	深井戸・鳥獣防止・屋外親魚飼育水槽基礎ほか
令和2年度	79,000,000 円	屋外親魚飼育水槽ほか
合 計	732,414,800 円	国・道 170,773,000 円 町 25,141,800 円 過疎債 536,500,000 円

表2 飼育状況 (R2.6.30 現在)

施設名	区 分	匹 数
S A F 恩根内	雌	320
	雄	110
	未判別	0
	小計	430
株式会社クリア ビニールハウス	雌	84
	雄	2
	未判別	394
	小計	480
チョウザメ館	雌	59
	雄	0
	未判別	822
	小計	881

有限会社久の家養殖場 (玉川)	雌	299
	雄	5
	未判別	1
	小計	305
チョウザメ飼育研究施設 (辺溪)	雌	462
	雄	5
	未判別	1,568
	小計	2,035
合 計	雌	1,224
	雄	122
	未判別	2,785
	小計	4,131

表3 魚肉、キャビアの売上額と販売先実績 (町 → 株式会社美深振興公社)

年度	雌雄	数量 (匹)	重量 (kg)	金額 (円)
平成30年度	雄	258	471.4	471,400
	雌	1	7.0	210,000
	計	259	478.4	681,400
令和元年度	雄	447	928.4	928,400
	雌	7	27.3	819,000
	計	454	955.7	1,747,400

表4 魚肉の売上額と販売先実績 (株式会社美深振興公社 → 町内外事業所)

年度	区分	数量 (匹)	重量 (kg)	金額 (円)
平成30年度	町内3事業所	6	8.1	50,410
	町外2事業所	17	28.3	12,786
令和元年度	町内5事業所	88	116.5	201,485
	町外4事業所	14	19.3	47,415

※びふか温泉分は除く